

漕ぎ出せ！ 夢の架け橋へ

天草・長島架橋建設促進期成会を発足

長島町と熊本県天草市間の架橋建設を目指す「天草・長島架橋建設促進期成会」発足式が8月17日、天草市役所牛深支所で行われ、出水・天草両地域の自治体、経済団体が集まりました。天草・長島間の長島海峡は、最短約2キロと、島原・天草間の約4.5キロより短く、島原・天草・長島架橋（三県架橋）実現の足がかりとするために、まずは天草・長島架橋の建設を促進することを目的に、この期成会を発足することとなりました。

発足式のこの日、鹿児島県側からは長島町、出水市、阿久根市の出水地区2市1町の首長や議長と、熊本県側から天草市、上天草市、苓北町の2市1町の首長や議長が出席。このほか、各地域の商工会や観光協会、農協、漁協など計37団体の代表者が参加しました。

会議では、期成会の名称や規約、役員選出、活動計画などについて議論が行われ、役員は期成会会長に中村五木天草市長、副会長に川添健長島町長が選出されました。



↑就任のあいさつをする中村五木天草市長

会長に就任した中村天草市長は「三県架橋構想の発案から30年以上経過した。期成会としての活動は、行政だけでできることではない。民間や各組織の協力をもらいながら一体となつて、一段階上げて運動をしていかなければならない。まずは、



↑期成会発足を記念して会員ら全員で記念撮影

何より三県架橋に係る国の調査予算を付けてもらうため、皆さんと協力して頑張っていきたいと思います」とあいさつしました。三県架橋は、昭和62年から、天草・出水・島原地域の関係自治体により期成会を設置し、三県選出の国会議員による議員連

盟を発足するなどして活動してきました。しかし、平成20年に国の財政難などによる理由で、国の基礎調査などが凍結されています。

建設構想となっている長島海峡



↑海峡幅は最短約2キロ



ゴールを目指しカヌーを漕ぎ出す参加者たち

長島海峡をカヌーで横断



↑漕ぎきる事を誓う選手たち



↑権立ででエールに応える選手



↑全員が見事にゴール

長島の自然に親しみながら、大会を通じて島原・天草・長島間の三県架橋の構想実現に向けての機運を高めるため、第32回カヌー長島海峡横断大会が8月28日に開催されました。

今大会には、出発地の天草市の中学生3人のほか、三県架橋構想で架橋経由地の長崎県南島原市の小学生8人、さらに与論町から4人の小中学生が加わり、本町の児童生徒ら33人と合わせて48人がゴールの蔵之元港を目指しました。

開会式では、川添町長らが選手たちへ激励の言葉を述べたあと、古田麟太郎さん（鷹巣小・5年）が「きつさや暑さに負けず、弱音を吐かず、もつと強い自分になれるよう最後まで元氣いっぱい漕ぎきることを誓います」と元氣よく宣誓しました。

選手たちは、応援に駆け付けた家族の声援を受けながら、11時30分頃牛深港を出発しました。

強い日差しの中、長島海峡を横断するフェリー第2天長丸からのエールを受ける選手たちは約8キロの航路を、小学生は4キロのリレーで、中学生は一人でチャレンジし、全員が無事にゴールしました。漕ぎきった選手たちの顔は笑顔で溢れていました。